

# 令和5年度 4学年授業改善プラン

大田区立矢口小学校

## 1. 昨年度の授業改善プランの検証

- 【国語】「漢字を書く」「言葉の学習」に課題がある。言葉の特徴や使い方について力をつける必要がある。
- 【社会】基礎的な知識や用語に対する理解力の育成が十分ではない。
- 【算数】既習事項を確かめ、繰り返しの復習により、知識や技能の定着につなげることができた。
- 【理科】学習を日常生活に関連付けて考えさせ、主体的に問題解決しようとする態度の育成を図る必要がある。

## 2. 大田区学習効果測定の結果

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	◆			▽			◆			◆		
観点別	▽	◆	▽	▽	▽	▽	◆	◆	◆	◆	▽	▽
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

- ◎ 正答率平均が目標値を上回った教科・観点
- ◆ 正答率平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▽ 正答率平均が目標値を下回った教科・観点

## 3. 各教科の授業改善プラン

### (1) 国語・社会・算数・理科

- 【国語】漢字の読み書きに個人差がみられるため、個に応じた繰り返し指導をする。書く学習でとまどってしまう児童には、頭に浮かんだことをそのまま記述することを意識させ、考えを表現する力につなげていく。またそれを発信したり他者の意見を聞いたりする活動を増やすことで学習を深める。
- 【社会】日常生活に関連付けて考える。資料を基に読み取った情報を新聞にまとめ、グループで見合ったり話し合ったりする。振り返りの時間を設け、学習したことや調べて分かったことなどを確認する場を設け、知識の定着を図る。
- 【算数】習熟の個人差が大きいため、習熟度別グループ学習を取り入れる。レディネス調査を行い、実態によって既習事項を確かめてから学習に入る。スモールステップ学習を実施し、知識・技能の習熟を図る。
- 【理科】既習事項や日常生活に関連付けさせながら根拠のある予想を立てさせる。また、児童自身が見通しをもてるよう学習の流れを意識させる授業を展開する。場合によってはデジタル教材を有効に活用し、知識・技能の定着を図る。

(2) 音楽・図画工作・体育

【音楽】 

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆合唱の技能について、集団による差が見受けられる。</p> <p>○聞き合うことを特に注目させた歌唱活動を取り入れる。</p>	<p>◆思いや意図をもって表現することが苦手である。</p> <p>○曲想表現方法を多く学習し、実際の演奏に生かしていく。鑑賞学習でICT機器を利用する。</p>	<p>◆正確性を求めるあまり、表現の幅が広がらない児童が目立つ。</p> <p>○よい演奏を多く聞かせ、自己の演奏の目標をもたせていく。</p>

【図画工作】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆一人一人の実技における技能の差が見受けられる。</p> <p>○実技の指導時にICT機器を活用し視覚的に分かりやすい指導を丁寧に行う。</p>	<p>◆発想や表現の差が見受けられる。</p> <p>○自分のイメージや表わしたいことを表現できるように、個別の指導を丁寧に行う。</p>	<p>◆うまくいかないときあきらめてしまう児童の姿が見受けられる。</p> <p>○一人一人の児童の活動に目を配り、励まし、ほめ、声掛けをする。作品の完成時に鑑賞の時間を取り、自他の作品のよさを味わう時間を設ける。</p>

【体育】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆個人差がある。経験の少なからマットや跳び箱、鉄棒など回転系や巧技系の基本的な技に苦手意識がみられる児童が目立つ。</p> <p>○運動に触れ合う機会を増やす。児童間で学び合う場を設定し、集団で高め合う。</p>	<p>◆自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫することが苦手な傾向がある。</p> <p>○学習カードを活用し、自分に合った目標を設定し、取り組めるようにする。</p>	<p>◆主体的に取り組む児童が多い中、受け身な児童もいる。</p> <p>○目標を細分化することで少しでも「やってみよう。」と意欲がわく授業を展開する。グループで取り組むことにより、みんなのできた体験を増やす。</p>